

復習シート 第三学年 国語



組	番号	名前
---	----	----

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ここまでのあらすじ」七歳の保吉は父親と玩具屋を訪れ、店主から幻灯の映し方（ガラス板の画をスクリーンに映す機械の使い方）を聞いている。

「あのぼんやりしているのはレンズのピントを合わせさえすれば——この前にあるレンズですな。——すぐにごらんのとおり、はつきりなります。」

主人はもう一度および腰になった。と同時にしゃぼんだまはみるみる一枚の風景画に変わった。もつとも日本の風景画ではない。水路の両側に家々のそびえた、どこか西洋の風景画である。時刻はもう日の暮れに近いころであろう。三日月は右手の家々の空にかすかに光を放っている。その三日月も家々も、家々の窓の薔薇の花も、ひっそりとたたえた水の上へ鮮やかに影を落としている。人影はもちろん、見たしたところかもめ一羽浮かんでいない。水はただ突き当たりの橋の下へまっすぐにひとすじつづいていく。

「イタリヤのベニスの風景でございます。」

三十年後の保吉にヴェネチアの魅力を教えたのはダンヌンチオの小説である。 A 当時の保

吉は、この家々だの水路だのにただたよりのない寂しさを感じた。彼の愛する風景は、大きい丹塗りの観音堂の前に無数の鳩の飛ぶ浅草である。あるいはまた高い時計台の下に鉄道馬車の通る銀座である。それらの風景に比べると、この家々だの水路だのは、なんとという寂しさに満ちているのであろう。鉄道馬車や鳩は見えなくてもよい。せめてはむこうの橋の上に一列の汽車でも通っていたら、——ちようどうこう思ったとたんである。大きいりぼんをした少女が一人、右手に並んだ窓の一つから突然小さい顔を出したと思うと、さらにその顔をこちらへむけた。それから——遠目にも愛くるしい顔に疑う余地のないほほえみを浮かべた！が、それは掛け価のない一、二秒の間のできごとである。思わず「おや」と目を見はった時には、少女はもういつの間にか窓の中へ姿を隠したのであろう。窓はどの窓も同じように人気のない窓かけを垂らしている。……

「さあ、もう映しかたはわかっただろう？」

父の言葉は「ぼうぜん」とした彼を現実の世界へ呼びもどした。父は葉巻をくわえたまま、退屈そうに後ろにたたずんでいる。玩具屋の外の往来もあいかわらず人通りを絶たないらしい。主人も——き

れいに髪を分けた主人は小手調べをすませた手品師のように、妙に蒼白あおしろい頬のあたりへ満足の微笑をただよわせている。保吉は急にこの B を一刻も早く彼の部屋へ持って帰りたいと思いだした。

……

保吉はその晩父といっしよに蟬せみを引いた布の上へ、もう一度ヴェネチアの風景を映した。中空の三日月、両側の家々、家々の窓の薔薇の花を映したひとすじの水路の水の光、——それは皆前に見たとおりである。が、あの愛くるしい少女だけはどうしたのか今度は顔を出さない。窓という窓はいつまでも待っても、だらりと下がった窓かけの後ろに家々の秘密を封じている。保吉はどうとう待ち遠しさにたえかね、ランプの具合などを気にしていた父へ歎願たんがんするように話しかけた。

「あの女の子はどうして出ないの？」

「女の子？どこかに女の子がいるのかい？」

父は保吉の問いの意味さえ、はっきりわからない様子である。

「ううん、いはしないけれども、顔だけ窓から出したじゃないの？」

「いつさ？」

「玩具屋の壁へ映した時に。」

「あの時も女の子なんぞは出やしないさ。」

「だって顔を出したのが見えたんだもの。」

「何を言っている。」

父はなんと思つたか保吉の額へ手のひらをやった。それから急に保吉にもつけ景気けいきとわかる大越を出した。

「さあ、今度は何を映そう？」

けれども保吉は耳にもかけず、ヴェネチアの風景をながめつづけた。窓は薄明るい水路の水に静かな窓かけを映している。しかしいつかはどこかの窓から、大きいリボンをした少女が一人、突然顔をださぬものでもない。——彼はこう考えると、名状（注6）のできぬなつかしさを感じた。同時に従来知らなかった、あるうれしい悲しさをも感じた。あの画の幻灯の中にちらりと顔を出した少女は、じつさい何か超自然の霊が彼の目に姿を現あらわしたのであるうか？あるいはまた少年に起こりやすい幻覚の一種にすぎなかったのであるうか？それはもちろん彼自身にも解決できないのにちがいない。

（芥川龍之介「少年」による。）

（注1）ベニスⅡヴェネチア。イタリア北東部に位置する都市。「水の都」の別名をもつ。

（注2）ダンヌンチオⅡイタリアの詩人、小説家、劇作家。

（注3）丹塗りⅡ赤または朱色に塗ってあること。また、塗ってあるもの。

（注4）歎願Ⅱ事情を述べて心に願うこと。

（注5）つけ景気Ⅱ実際はそうではないのに景気がよいように見せかけること。

（注6）名状のできぬⅡ言葉で言い表すことができない。

(1) **A**にあてはまる言葉を、あとのア～エの中から一つ選び、記号に丸を付けなさい。
レベル6・7

ア だから イ けれども ウ そして エ また

(2) ——— 線部①「ぼうぜんとした彼」とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号に丸を付けなさい。
レベル7～9

ア レンズのピントが合わないから。

イ 少女が突然小さな顔を出したから。

ウ 父が退屈そうに後ろにたたずんでいるから。

エ ヴェネチアの風景が映ったから。

(3) **B**にあてはまる言葉を、漢字二字で書きなさい。

レベル7～9



復習シート 第三学年 国語



組	番号	名前
模範解答		

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「ここまでのあらすじ」七歳の保吉は父親と玩具屋を訪れ、店主から幻灯の映し方（ガラス板の画をスクリーンに映す機械の使い方）を聞いている。

「あのぼんやりしているのはレンズのピントを合わせさえすれば——この前にあるレンズですな。——すぐにごらんのとおり、はつきりなります。」

主人はもう一度および腰になった。と同時にしゃぼんだまはみるみる一枚の風景画に変わった。もつとも日本の風景画ではない。水路の両側に家々のそびえた、どこか西洋の風景画である。時刻はもう日の暮れに近いころであろう。三日月は右手の家々の空にかすかに光を放っている。その三日月も家々も、家々の窓の薔薇の花も、ひっそりとたたえた水の上へ鮮やかに影を落としている。人影はもちろん、見たしたところかもめ一羽浮かんでいない。水はただ突き当たりの橋の下へまっすぐにひとすじつづいていく。

「イタリヤのベニスの風景でございます。」

三十年後の保吉にヴェネチアの魅力を教えたのはダンヌンチオの小説である。 **A** 当時の保

吉は、この家々だの水路だのにただたよりのない寂しさを感じた。彼の愛する風景は、大きい丹塗りの観音堂の前に無数の鳩の飛ぶ浅草である。あるいはまた高い時計台の下に鉄道馬車の通る銀座である。それらの風景に比べると、この家々だの水路だのは、なんと寂しさに満ちているのであろう。鉄道馬車や鳩は見えなくてもよい。せめてはむこうの橋の上に一列の汽車でも通っていたら、——ちようどうこう思ったとたんである。大きいりぼんをした少女が一人、右手に並んだ窓の一つから突然小さい顔を出したと思うと、さらにその顔をこちらへむけた。それから——遠目にも愛くるしい顔に疑う余地のないほほえみを浮かべた！が、それは掛け価のない一、二秒の間のできごとである。思わず「おや」と目を見はった時には、少女はもういつの間にか窓の中へ姿を隠したのであろう。窓はどの窓も同じように人気のない窓かけを垂らしている。……

「さあ、もう映しかたはわかっただろう？」

父の言葉は「ぼうぜん」とした彼を現実の世界へ呼びもどした。父は葉巻をくわえたまま、退屈そうに後ろにたたずんでいる。玩具屋の外の往来もあいかわらず人通りを絶たないらしい。主人も——き

れいに髪を分けた主人は小手調べをすませた手品師のように、妙に蒼白あおしろい頬のあたりへ満足の微笑をただよわせている。保吉は急にこの B を一刻も早く彼の部屋へ持って帰りたいと思いだした。

……

保吉はその晩父といっしよに蟬せみを引いた布の上へ、もう一度ヴェネチアの風景を映した。中空の三日月、両側の家々、家々の窓の薔薇の花を映したひとすじの水路の水の光、——それは皆前に見たとおりである。が、あの愛くるしい少女だけはどうしたのか今度は顔を出さない。窓という窓はいつまでも待っても、だらりと下がった窓かけの後ろに家々の秘密を封じている。保吉はどうとう待ち遠しさにたえかね、ランプの具合などを気にしていた父注4 たんがんへ歎願するように話しかけた。

「あの女の子はどうして出ないの？」

「女の子？どこかに女の子がいるのかい？」

父は保吉の問いの意味さえ、はっきりわからない様子である。

「ううん、いはしないけれども、顔だけ窓から出したじゃないの？」

「いつさ？」

「玩具屋の壁へ映した時に。」

「あの時も女の子なんぞは出やしないさ。」

「だって顔を出したのが見えたんだもの。」

「何を言っている。」

父はなんと思つたか保吉の額へ手のひらをやった。それから急に保吉にもつけ景気注5とわかる大越を出した。

「さあ、今度は何を映そう？」

けれども保吉は耳にもかけず、ヴェネチアの風景をながめつづけた。窓は薄明るい水路の水に静かな窓かけを映している。しかしいつかはどこかの窓から、大きいリボンをした少女が一人、突然顔をださぬものでもない。——彼はこう考えると、名状注6のできぬなつかしさを感じた。同時に従来知らなかった、あるうれしい悲しさをも感じた。あの画の幻灯の中にちらりと顔を出した少女は、じつさい何か超自然の霊が彼の目に姿を現あらわしたのであるうか？あるいはまた少年に起こりやすい幻覚の一種にすぎなかったのであるうか？それはもちろん彼自身にも解決できないのにちがいない。

(芥川龍之介「少年」による。)

(注1) ベニスⅡヴェネチア。イタリア北東部に位置する都市。「水の都」の別名をもつ。

(注2) ダンヌンチオⅡイタリアの詩人、小説家、劇作家。

(注3) 丹塗りⅡ赤または朱色に塗ってあること。また、塗ってあるもの。

(注4) 歎願Ⅱ事情を述べて心に願うこと。

(注5) つけ景気Ⅱ実際はそうではないのに景気がよいように見せかけること。

(注6) 名状のできぬⅡ言葉で言い表すことができない。

(1) **A**にあてはまる言葉を、あとのア～エの中から一つ選び、記号に丸を付けなさい。**レベル6・7**

ア だから **イ** けれども ウ そして エ また

三十年後の保吉にはヴェネチアの魅力が伝わっているが、七歳の保吉には、まだ、ヴェネチアの魅力が伝わっていない。
このことから、逆の意味を表す「けれども」が正答となります。

(2) ——線部②「ぼうぜんとした彼」とありますが、その理由として最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号に丸を付けなさい。**レベル7～9**

ア レンズのピントが合わないから。

イ 少女が突然小さな顔を出したから。

ウ 父が退屈そうに後ろにたたずんでいるから。

エ ヴェネチアの風景が映ったから。

寂しい風景の中に、大きいリボンをした少女が突然現れたので保吉はぼうぜんとしています。

(3) **B**にあてはまる言葉を、漢字二字で書きなさい。**レベル7～9**

幻
灯

Bの前までを読むと、保吉と父親が玩具屋の店主から幻灯の映し方を聞いていることが分かります。保吉は、少女が幻灯の中にもう一度現れるのを期待して、幻灯を持ち帰りたいと考えています。



復習シート 第三学年 国語

組	番号	名前

【読むことの問題】

- 1 次の文章は、A君が国語の授業で「海の誕生」について調べて書いた文章です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

〔一〕私たちの住む日本は海に囲まれている。海は、私たちに魚介類など食材として恵みを与えたり、美しい景色など心の恵みを与えてくれたり、海水浴などの娯楽をあたえてくれたりする。海とは、人間の生活にとって切っても切れない関係にある。では、海とはいったいどのようなもので、どのようにして誕生したのだろうか。

〔二〕海の起源を探るには、海がどのような性質のものかを知っておく必要がある。海とは星に存在するものの中で、特異なものである。

〔三〕海とは、地球の表面の陸地以外の部分で、海水で満たされた一つながりの地域のことをいう。海は、地球の地表のおよそ七割を占めている。また、海の平均的な深さは、富士山の高さと同じくらいといわれている。

〔四〕その海が誕生したのは、①地球の誕生から八億年ほど経った頃だとされている。その頃の地球は、マグマの海に覆われていた。大気中には大量の二酸化炭素が存在し、気温はいまの地球と比べ、非常に高かった。そのため、水分は蒸発し、水蒸気（ H_2O ）として大気中に存在し、上空では冷やされて分厚い雲として存在していた。

〔五〕その時代に、地球のまわりにあった微惑星は衝突と吸収を繰り返すなどして次第に数が減っていった。熱を生み出すきっかけであった微惑星の衝突が減ることで、高温だった地球の気温も下がり、溶岩も冷やされていった。徐々に気温が下がったことで、水蒸気として空気に溶けていた水は、雨となって大量に降り続けた。その状況が続き、やがて水が地表に流れ、その水がたまることで海が誕生したのである。

〔六〕海の誕生をめぐっては、謎がある。なぜ海の水は凍ったり、蒸発してなくなったりしないのかということである。多くの研究者達は、そのことを考えるため、他の星の温度を調べることにした。そして、地球に最も近い星である月に目を向けたのである。月の気温は地球と比べ、どのような違いがあるのか。

【七】月の表面の温度を調べて分かったことは、月は日の当たるときと、当たらないときでは、およそ三百度もの差があるということだ。これだけの差があると、仮に月に水分があった場合、昼間は燃えるような熱さで百十度まで上がり蒸発してしまう。（A）月の表面は、夜になるとマイナス百七十度まで下がり、水は凍ってしまふ。このようなことは、月からさほど離れていない地球上でも起こらないのだろうか。

【八】星の性質上、地球は、大気で覆われているため、大きな寒暖差があったとしても、その差が百度を超えるようなことはない。海が存在するためには、地球が、そういう位置に存在することこそがとても重要なのである。地球があと少し太陽に近ければ、海は太陽の熱を受け、すべて蒸発していたかもしれない。地球の存在する位置こそが、まさに奇跡であるのだ。

【九】また、大気に穴を開けるために衝突が何度かあったことも大きい。地球は、分厚い大気の層に包まれていたので、熱を地球の表面にためていた。しかし、星の衝突によって大気に穴が開き、熱が外に流れ出たと考えられている。熱が流出することで、地球の表面の温度が冷えたのである。もしも、地表の熱がこもつたままであれば、海は誕生しなかった。地表の熱い地球を想像できるだろうか。宇宙に浮かぶ、茶色い地球。そこには、命は誕生しなかったかもしれない。

【十】海が存在する星、地球。海が存在するのは、地球が「ちようどよい」ところにあったことに起因する。地球と太陽の距離は、海の誕生には「ちようどよい」距離だったのである。星の衝突は、月の組成に関わりがあるだけでなく、図らずも海を生んだことにもなったのだ。私たちは、地球の誕生について多くの仮説を立て、検証する価値があると考えているが、海の誕生について考えてみることも、地球の誕生をよりドラマチックに捉え直す機会を与えてくれる。様々な研究がすすむにつれて、地球がいまの位置にあることの重みも感じさせてくれる。

【十一】私たちの身近にある海が、どんな存在であるか、理解してもらえただろうか。②海が誕生した背景は奇跡と偶然に満ちている。そのような特徴をもつ海の誕生は、地球の歴史の中で一つの転換期であったと考えられなくはない。今後、他の星で海が発見され、地球と同じような歴史をたどる星が発見されるかも知れない。その可能性がわずかでもある限り、探索は今日も続いていく。

【十二】海を見るとときには、思い出してほしい。今から約三十八億年前、地球を覆う大きな雲より流れ出た大河が、海を誕生させたということ。海が違って見えるだろう。

〔基礎用語〕

大気：地球の表面を層状におおっている気体のこと。地球の引力により、地球の表面にとどまっている。

問一 本文中（A）に当てはまる語を次から選びなさい。

レベル8～10

ア しかし イ つまり ウ ところで エ さらに

問二 傍線部①「地球の誕生から八億年ほど経った頃」とあるが、「地球の誕生」は、何億年前だと考えられるか。本文中の内容から考えて、漢数字で答えなさい。

レベル9～11

億年前

問三 傍線部②「海が誕生した背景は奇跡と偶然に満ちている。」とあるが、それはどんな考え方であるか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

レベル9～11

- ア 海は、太陽と地球の距離によって誕生したという考え。
- イ 地球上に海が存在するのは、太陽の温度によるという考え。
- ウ 太陽と地球の距離は、あらかじめ定められていたという考え。
- エ 地球と月は、ちょうどよいところに存在していたという考え。

問四 段落①を要約した文として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

レベル9～11

- ア 修学旅行でも分かったとおり、日本は海に囲まれている国である。
- イ 私たちの生活と関係が深い海はどのようなようにして誕生したのか。
- ウ 私たちが毎日食べている食材は海から運ばれてくる。
- エ 私たちの生活は海とともにあり、人間にとって海は切っても切れない関係にある。



復習シート 第三学年 国語

組

番号

名前

模範解答

【読むことの問題】

- 1 次の文章は、A君が国語の授業で「海の誕生」について調べて書いた文章です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【一】私たちの住む日本は海に囲まれている。海は、私たちに魚介類など食材として恵みを与えたり、美しい景色など心の恵みを与えてくれたり、海水浴などの娯楽をあたえてくれたりする。海とは、人間の生活にとって切っても切れない関係にある。では、海とはいったいどのようなもので、どのようにして誕生したのだろうか。

【二】海の起源を探るには、海がどのような性質のものかを知っておく必要がある。海とは星に存在するものの中で、特異なものである。

【三】海とは、地球の表面の陸地以外の部分で、海水で満たされた一つながりの地域のことをいう。海は、地球の地表のおよそ七割を占めている。また、海の平均的な深さは、富士山の高さと同じくらいといわれている。

【四】その海が誕生したのは、①地球の誕生から八億年ほど経った頃だとされている。その頃の地球は、マグマの海に覆われていた。大気中には大量の二酸化炭素が存在し、気温はいまの地球と比べ、非常に高かった。そのため、水分は蒸発し、水蒸気（ H_2O ）として大気中に存在し、上空では冷やされて分厚い雲として存在していた。

【五】その時代に、地球のまわりにあつた微惑星は衝突と吸収を繰り返すなどして次第に数が減っていった。熱を生み出すきっかけであつた微惑星の衝突が減ることで、高温だった地球の気温も下がり、溶岩も冷やされていった。徐々に気温が下がったことで、水蒸気として空気中に溶けていた水は、雨となって大量に降り続けた。その状況が続き、やがて水が地表に流れ、その水がたまることで海が誕生したのである。

【六】海の誕生をめぐることは、謎がある。なぜ海の水は凍ったり、蒸発してなくなったりしないのかということである。多くの研究者達は、そのことを考えるため、他の星の温度を調べることにした。そして、地球に最も近い星である月に目を向けたのである。月の気温は地球と比べ、どのような違いがあるのか。

【七】月の表面の温度を調べて分かったことは、月は日の当たるときと、当たらないときでは、およそ三百度もの差があるということだ。これだけの差があると、仮に月に水分があった場合、昼間は燃えるような熱さで百十度まで上がり蒸発してしまう。（A）月の表面は、夜になるとマイナス百七十度まで下がり、水は凍ってしまふ。このようなことは、月からさほど離れていない地球上でも起こらないのだろうか。

【八】星の性質上、地球は、大気で覆われているため、大きな寒暖差があったとしても、その差が百度を超えるようなことはない。海が存在するためには、地球が、そういう位置に存在することこそがとても重要なのである。地球があと少し太陽に近ければ、海は太陽の熱を受け、すべて蒸発していたかもしれない。地球の存在する位置こそが、まさに奇跡であるのだ。

【九】また、大気に穴を開けるために衝突が何度かあったことも大きい。地球は、分厚い大気の層に包まれていたので、熱を地球の表面にためていた。しかし、星の衝突によって大気に穴が開き、熱が外に流れ出たと考えられている。熱が流出することで、地球の表面の温度が冷えたのである。もしも、地表の熱がこもつたままであれば、海は誕生しなかった。地表の熱い地球を想像できるだろうか。宇宙に浮かぶ、茶色い地球。そこには、命は誕生しなかったかもしれない。

【十】海が存在する星、地球。海が存在するのは、地球が「ちようどよい」ところにあったことに起因する。地球と太陽の距離は、海の誕生には「ちようどよい」距離だったのである。星の衝突は、月の組成に関わりがあるだけでなく、図らずも海を生んだことにもなったのだ。私たちは、地球の誕生について多くの仮説を立て、検証する価値があると考えているが、海の誕生について考えてみることも、地球の誕生をよりドラマチックに捉え直す機会を与えてくれる。様々な研究がすすむにつれて、地球がいまの位置にあることの重みも感じさせてくれる。

【十一】私たちの身近にある海が、どんな存在であるか、理解してもらえただろうか。②海が誕生した背景は奇跡と偶然に満ちている。そのような特徴をもつ海の誕生は、地球の歴史の中で一つの転換期であったと考えられなくはない。今後、他の星で海が発見され、地球と同じような歴史をたどる星が発見されるかも知れない。その可能性がわずかでもある限り、探索は今日も続いていく。

【十二】海を見るとときには、思い出してほしい。今から約三十八億年前、地球を覆う大きな雲より流れ出た大河が、海を誕生させたということ。海が違って見えるだろう。

〔基礎用語〕

大気：地球の表面を層状におおっている気体のこと。地球の引力により、地球の表面にとどまっている。

問一 本文中（A）に当てはまる語を次から選びなさい。 **レベル8～10**

ア しかし イ つまり ウ ところで エ さらに

前の内容に、付け加える内容が後に書かれています。

エ

問二 傍線部①「地球の誕生から八億年ほど経った頃」とあるが、「地球の誕生」は、何億年前だと考えられるか。本文中の内容から考えて、漢数字で答えなさい。 **レベル9～11**

三十八億年に生まれた海の、更に八億年前に地球が誕生したことから考えましょう。

四十六

億年前

問三 傍線部②「海が誕生した背景は奇跡と偶然に満ちている。」とあるが、それはどんな考え方であるか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。 **レベル9～11**

- ア 海は、太陽と地球の距離によって誕生したという考え。
- イ 地球上に海が存在するのは、太陽の温度によるという考え。
- ウ 太陽と地球の距離は、あらかじめ定められていたという考え。
- エ 地球と月は、ちょうどよいところに存在していたという考え。

四と田の段落の内容から考えてみましょう。

ア

問四 段落①を要約した文として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。 **レベル9～11**

- ア 修学旅行でも分かったとおり、日本は海に囲まれている国である。
- イ 私たちの生活と関係が深い海はどのようにして誕生したのか。
- ウ 私たちが毎日食べている食材は海から運ばれてくる。
- エ 私たちの生活は海とともにあり、人間にとって海は切っても切れない関係にある。

「筆者の主張」や「問題提起」が書かれている文から考えてみましょう。

イ